

第4章 都市づくりの主要な課題

ここでは、日置市の都市づくりを進めていく上での現状や問題、課題を示します。

1. 日置市全体の問題・課題

市全体に係る現状と問題点、都市づくりの課題は、以下のとおりです。

区分	現状と問題点	都市づくりの課題
都市づくり	県都鹿児島市に隣接し、ベッドタウンとして発展している	良好な住環境の確保に重点を置いた整備
	本市は4町が合併して誕生した市であるが、このうち3地域に都市計画区域が設定され、日吉地域には都市計画区域は設定されていない	都市として一体の整備、開発及び保全を図るとする都市計画区域の目的から、都市計画区域の見直しが必要かの検討が必要とされる
	市内は3都市計画区域で構成され、それぞれの地域で都市計画事業が進められている	市全体で一体感のある都市づくりを進める必要がある
	総人口は緩やかな減少傾向にあり、長期的には40,000人の維持を目指すとしている	総人口40,000人の維持に向けた各種取り組み
	高齢化が進行し、今後も高齢化比率は高まると想定されるが、長期的には現在と概ね同等の高齢化比率（平成72年(2060年)に31.2%）を目指す ^{※11} とされている	高齢者に優しいまちづくり
土地利用	市域の半数以上を山林が占め、また丘陵上の傾斜地も多く、宅地化が見込める土地は多くはない	限られた土地の有効活用
	農業生産基盤整備により優良農地の確保が図られている	優良農地の確保・保全を今後とも継続していくことが必要
	平成30年度から遊休農地等整備事業を導入する	事業の周知徹底と積極的な支援
	過去5年間で1,000件以上の新築動向がみられる	無秩序な宅地化の抑制による良好な生活環境の形成
	空き家バンク事業や空き家等改修事業に対して多くの相談等が寄せられており、空き家の利活用が進んでいる	空き家バンク事業等の継続が望まれる また、市街地郊外部への定住促進につながる場合は各種サービス面（インフラ等）の充実が期待できないことから、更なる方策の検討も必要
	4ヶ所の工業団地は全て埋まっており、さらに企業の立地需要がある	企業立地の適地確保が課題
JR伊集院駅北側に位置するパナソニックの生産移転があり、就業の場が減少した。一方でシチズンの工場増設に伴い雇用の増加を生んでいる	雇用の場の確保が課題	

※11 高齢化比率（平成72年(2060年)に31.2%）を目指す：日置市人口ビジョン（平成27年10月）による。

区分	現状と問題点	都市づくりの課題
拠点整備	合併の経緯から、1市のなかに4つの市街地を構成している	各地域の拠点形成と地域間の連携
	平均世帯人員の減少傾向がみられる	若年層や高齢者の単身世帯の増加に応じた生活環境整備
	高齢化の進行がみられる	高齢者が安全・安心して暮らせる環境整備
	妙円寺詣りなどの伝統行事、美山地区の薩摩焼の里や吹上浜などの豊富な観光資源を有しており、観光客は増加傾向にある	市の固有資源を活かした観光拠点づくり
都市交通	南九州西回り自動車道の延伸や美山パーキングエリアのハーフインターチェンジ化で周辺都市との利便性が増している	南九州西回り自動車道の利便性を活かしたまちづくり
	市内の4つの地域拠点は南九州西回り自動車や国道3号、国道270号、ほか県道で結ばれているが、日吉地域と伊集院インターチェンジ間のアクセス面がやや弱い	日吉地域と伊集院地域間のアクセス強化
	隣接する鹿児島市のベッドタウンとして発展しており、通勤や通学など周辺都市とのつながりが深い	周辺都市との交通連携の強化
	幅員別の道路延長をみると、幅員4m未満の道路延長は全体の約4割を占めている	狭隘道路の解消
	市内の路線バス等は、高速バス、空港バスのほか、鹿児島市等と本市を結ぶ路線バスが運行され、利用者は概ね横ばいから減少の傾向にある	利用者の増加に向けた方策の実施
	コミュニティバスや乗合タクシーを導入し、中山間地域等での買い物や通院などの交通手段の確保に努めているが、地域ごとに運営されている	サービス強化と地域間連携
	市本庁舎及び支所は、それぞれ必要な耐震診断や耐震補強等を進めており、現在地での運営としている	市本庁舎及び支所のアクセス向上
	半島基幹農道の吉利地区（狩谷～梅里間）はH30.4から供用開始となり、約4kmの広域農道（市道上野恋之原線）が完成している	農業生産環境を阻害しないような道路利用が望まれる
	都市環境	高齢者や子供達が安心して過ごせる身近な公園整備が期待されている
市民農園を1ヶ所開設しているが、全ての区画が利用されており、ニーズが高い		市民農園の充実検討が課題
薩摩街道（上土橋太陽化学入口～清藤間）や旧薩摩街道（出水筋）の道路維持等、環境整備を進めている		歴史資源となる道路の環境保全・整備

区分	現状と問題点	都市づくりの課題
都市環境	公共下水道は伊集院地域の市街地部のみ整備され、他の地域は農業集落排水や浄化槽による処理となっている	公共下水道計画区域における未整備地区の整備推進
	鹿児島国体に向けて、都市公園の改修等を進めている	競技会場となる伊集院総合運動公園野球場、東市来運動公園湯之元球場、吹上浜公園体育館の有効利用
景観形成	棚田の保安全管理活動支援を行っている	地域の固有資源としての保全と活用が期待される
	薩摩街道、旧薩摩街道に係る景観に配慮した道路及び施設整備を進めている	景観に配慮した道路環境整備
	日本三大砂丘の吹上浜があり保全が図られている	吹上浜の保全
防災	近年は洪水や土砂災害による大規模な災害は発生していないが、地震や火山噴火などの大きな被害となり得る災害の懸念がある	各種災害に対応した環境整備
	ため池について漏水等のみられる危険ため池がある	池堤体の決壊などを防ぐための方策が必要

2. 地域別の問題・課題

ここでは、地域別にみた問題・課題をあげています。ただし、市全体の問題・課題でもある内容は前項「1. 日置市の問題・課題」で整理しています。

【東市来地域】

区分	現状と問題点	都市づくりの課題
都市づくり	東市来地域の人口は減少傾向にあり、今後も続くものと見込まれる	将来の人口規模に見合ったまちづくり
	転出超過の傾向が続いている	転出抑制に向けたまちづくり
土地利用	商店街の店舗は、営業店舗数の1割程度の空き店舗がみられる	地域の商店街の活性化に向けた空き店舗解消の取り組み
	JR東市来駅北西部に準工業地域の指定地域があるが、郵便局も立地する住宅地域となっている	用途地域の見直しの必要性を検討
	湯之元地区には国道3号沿道に一定の商業集積がみられるが、用途地域が商業地域である一帯は住居系建物が大半である	湯之元地区の商業地域の見直しの検討
	過去5年間で200件以上の新築動向がみられ、ほとんどは住宅地である	無秩序な宅地化の抑制による良好な生活環境の形成
	湯之元第一地区土地区画整理事業が進行中である	JR湯之元駅と国道3号の間に位置する地域の環境整備として、事業の確実な実施

区分	現状と問題点	都市づくりの課題
土地利用	湯之元地区の国道3号南側の温泉地区は狭隘道路が残る住宅密集地となっている	防災面と温泉地の活性化につながる都市整備が期待される
	公営住宅は入居希望者が偏っていて、空き家が続く住宅もみられる	効果的な公営住宅整備が求められる
拠点整備	小学校、中学校の再編計画（平成26年度～平成35年度）を関係自治会に提示しているが、現在のところ行われていない	地域住民との合意形成を踏まえた再編の検討が必要
	美山地区には薩摩焼の里がある	観光資源の創出・魅力向上につながる拠点整備と、美山インターチェンジのフルインターチェンジ化とアクセス向上
	江口浜周辺はスポーツ・レクリエーション機能の集積がみられる	スポーツ・レクリエーション機能の整備促進と活用
都市交通	皆田工業団地から市来インターチェンジへの交通はJR湯之元駅前を通過する必要がある	県道309号(山田湯之元停車場線)のJR湯之元駅前を迂回する路線整備が望まれる
	他の地域で導入している乗合タクシーは東市来地域では導入しておらず、コミュニティバスは利用者の減少がみられる	乗合タクシーの導入の是非の検討 コミュニティバスの利用者増加につながる方策の検討
	JR湯之元駅周辺の都市計画道路は、面整備事業に伴う街路整備は進んでいるが、面整備計画の無い湯之元温泉地区は街路整備が進んでいない	湯之元温泉地区の観光資源の活性化につながる街路整備の在り方を見直す必要がある
	骨格道路としては、南九州西回り自動車道、国道3号、国道270号、(主)鹿児島東市来線(県道24号)で構成されている 美山インターチェンジとのアクセスがやや弱い	地域の骨格を形成する幹線道路の整備充実 美山インターチェンジとのアクセス強化
都市環境	街区公園の湯之元西公園、湯之元公園、湯之元東公園は、未整備となっている	湯之元土地区画整理事業の整備推進
	今後は、皆田工業団地周辺の騒音が懸念される	騒音対策の検討が必要
景観形成	伊作田地域は東シナ海への良好な眺望が望める	良好な眺望景観の保全と活用

【伊集院地域】

区分	現状と問題点	都市づくりの課題
土地利用	JR伊集院駅北側は、徳重土地区画整理事業により新たな都市空間が整備された	にぎわいのある都市空間の整備
	過去5年間で700件以上の新築動向がみられ、ほとんどは住宅地であるが、商業地の建築も他の地域よりも多い	無秩序な宅地化の抑制による良好な生活環境の形成

区分	現状と問題点	都市づくりの課題
土地利用	大規模小売店舗の進出とともに、中心商店街の活力低下が懸念される	中心商店街の活性化につながる都市整備
	徳重神社周辺は準工業地域となっているが、一般住宅の立地がみられる	用途純化など、住環境の保全につながる方策の検討が必要
拠点整備	伊集院地域の人口は宅地開発の効果もあり増加傾向にあるが、今後は徐々に減少が見込まれる	人口減少に見合ったまちづくり
	伊集院インターチェンジ周辺には清藤工業団地や商業業務系店舗の立地がみられるが、用途地域の指定はされていない	建物用途の混在による環境悪化が懸念される場合は、用途地域の指定の検討が必要
	小学校及び中学校の再編計画（平成26年度～平成35年度）を関係自治会に提示しているが、現在のところ行われていない	地域住民との合意形成を踏まえた再編の検討が必要
	伊集院文化会館は老朽化が進んでいる	伊集院文化会館の計画的な建て替え等の整備
都市交通	JR伊集院駅の北口と南口の駅前広場が完成し、南北自由通路や駐車場も整備され、薩摩半島の西の玄関口として魅力が向上した	JR伊集院駅の観光拠点としての活用推進
	JR伊集院駅周辺に交通集中が発生している	地域内の通過交通がJR伊集院駅周辺を通過せずに伊集院インターチェンジに接続できる交通体系整備が望まれる
	市街地南部に計画した3・5・7上之馬場通り線が未整備である	JR伊集院駅周辺の交通集中を抑制する効果として整備が期待される
	市街地南部に計画した3・5・5向江町線は既存道路部以外は未整備である	JR伊集院駅周辺の交通集中を抑制する効果として整備が期待される
	骨格道路としては、南九州西回り自動車道と国道3号のほか、伊集院市街地から放射状に(主)鹿児島東市来線(県道24号)、(主)伊集院日吉線(県道37号)、県道小山田谷山線(県道210号)で構成されている (主)鹿児島東市来線と(主)伊集院日吉線はJR伊集院駅前を通ることから、交通集中が起きやすい	地域の骨格を形成する幹線道路の整備充実 JR伊集院駅前を避ける交通網の整備
	コミュニティバスと乗合タクシーを導入しており、利用者はどちらも横ばいから増加の傾向にある	利用者増加に応じた運営の継続的見直し
都市環境	麦生田地区に水道未普及地域が残っている	水道未普及地域の解消
景観形成	伊集院都市計画道路本町通り線は、清流溝が整備され、特徴的な街路景観を形成している	伊集院都市計画道路本町通り線の街路景観の保全と活用
防災	平成22年、平成25年には、大雨・洪水による床下浸水の被害が生じている	地域の状況に応じた洪水対策

【日吉地域】

区分	現状と問題点	都市づくりの課題
都市づくり	日吉地域の人口は減少傾向にあり、今後も続くものと見込まれる	将来の人口規模に見合ったまちづくり
	転出超過の傾向が続いている	転出抑制に向けたまちづくり
土地利用	日吉支所等の官公庁施設や学校施設等の集積する地域の中心市街地はあるが、商業系の集積には至っていない	中心部への商業・サービス施設の集積促進
	日吉地域は用途地域指定は無く、中心市街地形成のための規制・誘導は無く、自然的立地動向に委ねている	コンパクトな中心市街地形成のための規制・誘導が必要かどうかの検討が必要 (市街地部の建物用途の混在度合)
	過去5年間で70件以上の新築動向がみられ、ほとんどは住宅地である	無秩序な宅地化の抑制による良好な生活環境の形成
	公営住宅は老朽化が目立ってきている	公営住宅の計画的な更新
都市交通	吹上地域や東市来地域とは国道270号で結ばれているが、伊集院地域と結ぶ県道37線は地形的要因もあり若干機能性が低い（伊集院インターチェンジとの接続が弱い）	日吉地域と伊集院インターチェンジを結ぶ道路整備が望まれる
	骨格道路としては、国道270号、(主)伊集院日吉線で構成される 伊集院インターチェンジとのアクセス強化が期待される	地域の骨格を形成する幹線道路の整備充実 伊集院インターチェンジとのアクセス強化
	コミュニティバスを休止し、乗合タクシーを運営しているが、利用者の伸び悩みがみられる	乗合タクシーの利用者増加につながる方策の検討

【吹上地域】

区分	現状と問題点	都市づくりの課題
都市づくり	吹上地域の人口は減少傾向にあり、今後も続くものと見込まれる	将来の人口規模に見合ったまちづくり
	転出超過の傾向が続いている	転出抑制に向けたまちづくり
土地利用	吹上都市計画 3・6・3本町線の沿道に一定の商業集積がみられる 用途地域の指定はされていないことから、用途の混在が懸念される	伊作地区の用途地域設定の検討が必要
	吹上地域は用途地域指定は無く、中心市街地形成のための規制・誘導は無く、自然的立地動向に委ねている	コンパクトな中心市街地形成のための規制・誘導が必要かどうかの検討が必要 (市街地部の建物用途の混在度合)
	過去5年間で100件以上の新築動向がみられ、ほとんどは住宅地である	無秩序な宅地化の抑制による良好な生活環境の形成

区分	現状と問題点	都市づくりの課題
土地利用	中心市街地である伊作地区の幹線道路沿道は、老朽化住宅や空き家がみられる	老朽化や空き家に対する整備方策の検討
	老朽化の進んだ公営住宅は新たな入居希望者が無い状況がみられる	定住促進につながる方策の検討が必要
拠点整備	小学校の再編計画（平成26年度～平成35年度）を関係自治会に提示しているが、現在のところ行われていない	地域住民との合意形成を踏まえた再編の検討が必要
	吹上浜公園、健康交流館ゆ〜ぶる吹上、吹上浜サイクリングロードなどを集積し、スポーツ合宿や各種大会などが行われている	レクリエーション拠点としての整備充実
都市交通	吹上地域の都市計画道路は、3・5・1神田線（国道270号）のみ整備済で、他の3路線は整備が進んでいない	吹上支所などを置く地域の中心市街地と吹上温泉地区で構成される地域の中心拠点の形成のために、早期整備が期待される
	国道270号、(主)谷山伊作線(県道22号)、(主)永吉入佐鹿児島線(県道35号)で構成される南九州西回り自動車道伊集院インターチェンジまたは松元インターチェンジとのアクセス向上が期待される	地域の骨格を形成する幹線道路の整備充実 南九州西回り自動車道とのアクセス強化
	コミュニティバスと乗合タクシーを導入しており、利用者はどちらも横ばいから増加の傾向にある	利用者増加に応じた運営の継続的見直し
都市環境	吹上温泉を有し、関係する「西郷南洲翁来遊の碑」の案内看板の設置を進めるなど、観光スポット整備を行っている	吹上温泉の観光資源としての活用